

# せたがやの文化財

No. 026

編集・発行

世田谷区教育委員会事務局  
生涯学習・地域・学校連携課 文化財係  
〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27  
Tel 03-5432-2726 Fax 03-5432-3039  
<http://www.city.setagaya.lg.jp>

発行日 平成26年3月7日  
再生紙を使用しています

新しく登録・指定された文化財



区指定有形文化財（考古資料）  
円乗院遺跡出土弥生土器一括



区登録有形文化財（歴史資料）  
山岡鐵舟書「深澤覺」扁額



区指定有形文化財（歴史資料）  
井伊直弼銅像

各文化財の解説は次ページをご覧ください。

区指定有形文化財（考古資料）

えんじょういんいせきしゅつどやよい ど き いっかつ  
円乗院遺跡出土弥生土器一括

26点

指定年月日 平成26年1月16日

所在地 世田谷1-29-18

区立郷土資料館（寄託品）

この土器群は、区内代田二丁目周辺で、昭和元～2年（1926～27）ごろに行われた耕地整理の際に、齋田平太郎氏らによって、弥生時代の住居跡6軒（うち1軒は後に環濠と判明）から発掘・採集された土器の主要なもので、その後、昭和53年に区立郷土資料館に寄託されています。

壺形土器や高坏形土器の口縁部や肩部に、端部を結束したS字状結節文をともなう細縄文や円形朱文が施され、壺形土器口縁部には棒状浮文が貼付けられる文様構成を特徴とするこの土器群は、関東地方における弥生時代後期（約1,800年前）の土器の一型式として、昭和37年（1962）に菊池義次氏によって、「円乗院式」と命名され、学会に提唱されました。

その後、この円乗院式土器は区内の弥生時代諸集落からも多く出土しており、東京湾西岸地域に一定の広がりをもつ文様構成として認識されています。

発見当時は、区内でほぼ唯一のまとまった弥生時代遺物として注目されました。

円乗院遺跡では現在までに6回の発掘調査が行なわれ、弥生時代には新旧2つの環濠でかこまれたムラ（環濠集落）があることがわかってきました。一つの遺跡で新旧の環濠が部分的に重なり合うことは極めてまれなことです。古い時期の環濠（A）は、東西45メートル、南北40メートル程度と小規模ですが、新しい時期の環濠（B）は東西約100メートル、南北約80メートル程度のかかなり大きな規模であったと考えられます。齋田氏発見の環濠は後者（B）で、住居はこの内側にあったものと推定できます。

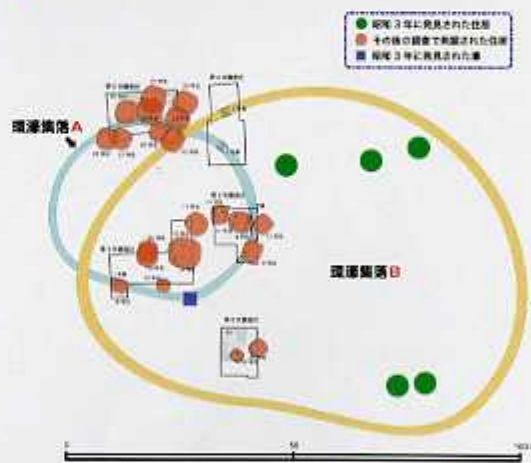
なお、この環濠を埋め立てて、その上に新たな古墳時代のムラがつくられています。



▲弥生土器（左：壺、右：台付甕）



▲左側が棒状浮文 右側が円形朱文と細縄文



環濠（A）▶

## 区指定有形文化財（歴史資料）

## 井伊直弼銅像

1体

指定年月日 平成26年1月16日

所在地 豪徳寺2-24-7

宗教法人 豪徳寺（非公開）

高さ 1,226ミリメートル

第13代彦根藩主・井伊直弼は、万延元年（1860）3月3日江戸城へ向かう途中、桜田門外で殺害されました（桜田門外の変）。

下って、維新後の明治14年（1881）頃から旧彦根藩士の間で、かつての主君・直弼を顕彰しようという気運が高まり、京浜地域において記念碑の建立と用地の取得が検討されはじめます。しかし、東京府内では建碑の許可が下りず、同42年（1909）の横浜開港50周年にあわせて、横浜港を見下ろす戸部山に銅像を建てる計画が進められることとなりました。

銅像の制作に携わった彫刻家・藤田文蔵は、肖像画や旧彦根藩士からの聞き取りなどを参考に、装束も忠実に再現するなど、非常に苦心した、と後に語っています。豪徳寺に残る銅像は、戸部山に建てられた像の制作過程において藤田が彫刻したと考えられています。

世田谷ゆかりの著名人の銅像として貴重な歴史的資料であり、近代彫刻としてその美術的価値も高いことから、区文化財に指定されました。

ちなみに、戸部山に建設された銅像は、太平洋戦争中の昭和18年（1943）、台座を残して軍事物資として供出されてしまいました。現在の銅像は、昭和29年（1954）の横浜開港100周年に際し、彫刻家・慶寺丹長の手により再建されたものです。このとき慶寺は、豪徳寺に残るこの銅像を手本として制作にあたったということです。



▲正面



区登録有形文化財（歴史資料）

やまおかてつしゅうしよ ふかさわこう へんがく  
山岡鐵舟書「深澤覺」扁額 1面  
つけまじり  
附 同書「深澤学校」扁額 1面

指定年月日 平成26年1月16日

所在地 新町1-4-24 区立深沢小学校



▲附 「深澤学校」 寸法(mm)縦437横1,487厚40



▲ 「深澤覺」 寸法(mm)本紙 縦416横1,360

深澤にはじめて公立の学校ができたのは明治11年(1878)3月で、当時は荏原学校(現・若林小)の分校、深沢分校として、村内83番地の医王寺内に誕生しました。翌12年(1879)4月には、分校から本校へ変更になり深沢学校と改称しました。その約3ヶ月後には村内1262番地(現・深沢四丁目郵便局)に校舎を新築して移転しました。

深沢小学校には、学校設立ときに制作されたと考えられる扁額が二つ残されており、一つは、「深澤覺」で、小学校の60周年記念誌『ふかさわ～町と学校の歩み～』には「開校当時玄関に掲げられていた」という記載があります。

もう一つは、木製で、「深澤学校」の校名が用いられたことを示す資料となっています。

これら二枚の扁額を書いた山岡鉄舟は、幕末から明治期にかけて、幕府や新政府に仕え、剣術と書に優れた人物として知られます。山岡は、深沢の豪農・秋山氏と親交があり、碁打ちに訪れた際に書いた、との伝承が同校に残っています。

これらの扁額は、ともに明治初期の学校設立ときに制作されたと考えられ、区の教育史上、貴重な資料といえます。

## 遺跡が新たに 見つかりました

平成25年5月に実施された遺跡発掘調査において、古墳の一部とみられる遺構が新たに発見されました。

場所は野毛一丁目で、一帯は下野毛遺跡がひろがっています。今回見つかったのは、古墳時代の円墳周溝の一部です。墳墓の直径は約20メートルと推定されます。



野毛12号墳の周溝

事業報告 指定文化財補助事業

■区指定有形文化財  
「板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図」  
状況調査と保存のための修理を実施

「板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図」は、幕末から明治初期頃の氷川神社とその周辺の様子を描いた奉納額で、昭和60年6月に区有形文化財に指定されました。

平成24年度に文化財保存のための調査を行ったところ、3枚矧ぎの板材に隙間があることや、外枠の黒漆が剥がれているなど、経年変化による劣化が認められました。光学的調査もあわせて行ったところ、絵の色の退色や剥がれ落ちた箇所はあるものの、下絵の墨が比較的濃く表現されてよく残っていることなどがわかりました。

そこで絵図のクリーニングを行うと共に、隙間や緩みを調整し、漆材の剥がれの進行を止める処置を行い、文化財保存のための修理事業を実施しました。

■お出かけください公園内の史跡  
—都指定史跡「等々力溪谷3号横穴」—

等々力溪谷3号横穴（等々力1丁目）は、区立等々力溪谷公園内にある横穴墓の一つです。築造年代は古墳時代後期（7世紀）で、東京都史跡に指定されています。横穴内部に自動点灯する照明装置を取り付け、入口や内部の壁を補強する修理を行いました。墓の内部がより見やすくなりましたので、ぜひ見学にお出かけください。



補強された入口

区ホームページで文化財を紹介しています

区内にある文化財情報を区役所のホームページで紹介しています。



閲覧方法

ホームページアドレス <http://www.city.setagaya.lg.jp/index.html>  
「楽しむ・学ぶ」→「文化財」→「せたがやの文化財」→  
「せたがやの文化財」

事業報告 文化財保護強調週間・せたがや文化創造塾・宇奈根考古資料室特別展示

平成25年度は下記の事業を実施しました。

事業	日にち	内 容
せたがや文化創造塾	8月31日(土)	茶壺を考える 竹内順一(永青文庫館長)
	同上	江戸末期の幕府と朝廷 奥田晴樹(立正大学大学院教授)
	9月2日(月)	縄文時代と石の文化ー縄文時代後・晩期の特質ー 山本暉久(昭和女子大学大学院教授)
	同上	歴史的建造物を復元する楽しみ 堀内正昭(昭和女子大学大学院教授)
	9月5日(木)	鶴と鶴飼 石野律子(神奈川大学常民文化研究所客員研究員)
	9月7日(土)	婚姻圏としての江戸と周辺農村ー太子堂における農民と武士の婚姻形態ー 森安彦(国文学研究資料館名誉教授)
	9月8日(日)	世田谷からアジアの文化財へ 重枝豊(日本大学教授) 富士登拝と富士講ー世田谷そして東京の事例からー 田中宣一(成城大学名誉教授)
文化財保護強調週間	10月19、20日(土・日)	第6回 野毛古墳まつり
	10月30日(水) ～11月21日(木)	写真展 奥澤神社の大蛇じゃじゃ!
	10月31、11月1日(木、金)	梅ヶ丘～下北沢 文化財探訪
	11月1日(金) ～12月27日(金)	次大夫堀公園民家園企画展示 野菜の時代ーせたがやそだちの源流ー
	11月2日(土) ～12月8日(日)	郷土資料館特別展 1955-64 写真でみる高度経済成長期の世田谷
	11月16日(土)	第8回世田谷区遺跡調査・研究発表会
宇奈根特別展示	6月1日(土) ～30日(日)	せたがや王家の丘の埴輪たち ー野毛大塚古墳群の埴輪を一挙に大公開ー
	2月1日(土) ～28日(金)	ここまでわかった喜多見氏陣屋跡ー重なり合う時代ー



第7回宇奈根考古資料室展示



世田谷からアジアの文化財へ 重枝豊(日本大学教授)



1955-64 写真で見る高度経済成長期の世田谷



野菜の時代ーせたがやそだちの源流ー 関連イベント 荷車の実演と体験 民家園に牛がやってくる



第6回野毛古墳まつり 火起こし体験



文化財探訪 富士見丘教会(代沢)

## せたがやの文化財にようこそ

### 岡本公園民家園

昭和55年（1980）12月開園。園内には、区指定有形文化財第1号である旧長崎家住宅と浦野家土蔵ほか、旧横尾家腕木門が移築復元されています。『生きている古民家』をテーマに囲炉裏には毎日火が焚かれ、軒下には農具なども置いてあって当時の生活を思わせます。また、桃の節句、七夕など年中行事を再現して、季節を感じる工夫をしています。みなさんも、岡本公園民家園で昔ながらの暮らしをひととき体験してみませんか。



撮影 清水襄

世田谷区岡本2-19-1 TEL 03-3709-6959 東急田園都市線「二子玉川」駅徒歩20分または小田急線「成城学園前」駅行バス「世田谷総合高校」徒歩5分 開園時間9:30~16:30 休園日/毎週月曜日（ただし、祝日と重なった場合はその翌日）、年末年始（12月28日~1月4日、ただし元旦は特別開園）、無料。



撮影 清水襄

世田谷区喜多見5-27-14 TEL 03-3417-8492 小田急線「成城学園前」駅徒歩15分または東急田園都市線「二子玉川」駅行バス「次大夫堀公園前」徒歩2分 開館時間9:30~16:30 休館日/毎週月曜日（ただし祝日と重なった場合はその翌日）、年末年始（12月28日~1月4日、ただし元旦は特別開園）、無料。

### 次大夫堀公園民家園

昭和63年（1988）開園。名主屋敷の旧安藤家住宅、一般的な農家の旧加藤家住宅、酒屋を営んでいた城田家住宅をはじめ、旧秋山家住宅土蔵、旧谷岡家住宅表門の5件の文化財を移築復元し、次大夫堀用水の流れとともに江戸から明治時代の農村が再現されています。年に一度「農家の暮らし」や「古民家と職人」などのテーマを設けて企画展を開催し、暮らしのなかで培われた知恵や技術を紹介しています。世田谷の原風景ともいえる農村の景色をお楽しみください。

# せたがやの文化財

No. 026

新しく登録・指定された文化財

円乗院遺跡出土弥生土器一括……………2

井伊直弼銅像……………3

山岡織舟書「深澤覺」冒頭ほか……………4

平成25年度事業報告

補助事業、区HP文化財紹介……………5

文化財保護強調週間ほか……………6

世田谷の文化財によろこそ……………7-8



代官屋敷主屋のたたずまい

平成25年度事業報告

せたがやの  
文化財によろこそ

見学できます

## 世田谷代官屋敷 郷土資料館



古墳時代の短甲  
(複製 御岳山古墳)



玉電開通 明治40年



椋田門外の菱

**世** 田谷代官屋敷は、江戸中期以来、彦根藩世田谷領20ヵ村の代官を世襲した大場家の役宅で、大場代官屋敷とも呼ばれています。大名領の代官屋敷としては都内唯一の存在であることから都の史跡に、また、現存する住宅主屋と表門の2棟は国重要文化財（建造物）に指定されています。

同じ敷地内にある区立郷土資料館は昭和39年（1964）に開館した博物館で、世田谷区に関する歴史・民俗資料などを収集保存し、これらを展示し、調査・研究を行っています。原始・古代の集落遺跡の出土品や江戸近郊農村であった世田谷の地が住宅地として変ぼうするまでを、時代ごとに展示しています。平成26年に開館50周年を迎える郷土資料館に、ぜひ足を運んでみてください。

区立郷土資料館案内…世田谷区世田谷1-29-18（世田谷代官屋敷内）TEL 03-3429-4237 東急世田谷線「上町」駅徒歩5分 開館時間9:00~17:00（入館は16:30まで）休館日/毎週月曜日（ただし祝日と重なった場合はその翌日も）、祝日、年末年始（12月29日~1月3日）、無料。